

令和2年度学校評価報告書

令和3年3月26日

北海道教育委員会教育長 様

北海道苫小牧総合経済高等学校長 宮 津 尚 美

次のとおり令和元年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- 1 心身の健康増進と安全に行動する態度の育成を図る
- 2 学習意欲の育成と学習習慣の定着を図る
- 3 豊かな人間性と社会性の育成を図る
- 4 望ましい勤労観・職業観の育成と進路実現を図る

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学 習 指 導	・基礎・基本の定着を図る授業については、教科の特性を生かした工夫・改善を行い指導の展開が行われている。 ・生徒の学習活動に対する興味・関心を高めるため、各種検定試験の資格取得に向けた意識付けおよび講習等の取組を行った。前年度よりも改善が見られた。 ・補習、講習を充実させているが、難易度の高い問題になるとあきらめてしまう傾向がある。自主的計画的な家庭での学習習慣の定着に未だ課題がある。また、各教科横断的な授業についても課題があり、今後は研究授業、教科研修、実践の機会を増やす。	・家庭での学習の増加が今年度見られている。この結果を来年度維持していただきたい。 ・家庭との連携で生徒の自主的学習への自覚する必要がある。 ・学校の特色を生かした学習活動が行われている。 ・教員の取組が学校全体の学力向上につながっている ・卒業後、社会で通用する知識や技能の向上に一層努めてほしい。
改 善 方 策	・家庭学習習慣の定着に向けて、各教科間が連携を図り週末課題等を課すことが必要。 ・学習に対する達成感や成就感を高めるため、習熟度別授業、チームティーチングの展開するなど組織としての取組を実施が必要。 ・生徒の実態を把握するとともに、普段の学校生活から社会に通用する姿勢を示していくことが必要。	
生 徒 指 導	・生徒の基本的な生活習慣の確立や教職員と生徒との信頼関係の確立、概ね良好である。 ・コロナウィルス感染症対策として、全教員による玄関指導に重点をおき指導を行った。その結果、遅刻、身だしなみ等に関する指導が大幅に減少した。 ・生徒理解が深まりつつあるが、心の相談委員会を活性化し、教育相談の機会をより多く設け、対応を行った。 ・人権や生命を尊重する態度の育成のため、ボランティア活動等への積極的な参加を推進する必要がある。	・来校の際、生徒の元気な挨拶がある。 ・社会人として必要な挨拶を始めとするコミュニケーション能力の育成に更に心がけて欲しい。 ・身だしなみについては良好であり、好感が持てる。 ・SNSの使用について、様々な問題も発生しているが、校内での対応で指導している。今後もモラルなどについて。 ・部活動を推進されているのは良い。積極的に成就感を高める指導を求めている。
改 善 方 策	・教職員の共通理解、共通実践による全職員が統一した指導方針に基づいた生徒指導の充実。 ・教育相談の必要な生徒への対応と「心の相談委員会」とスクールカウンセラーを活用した教育相談の充実。 ・基本的生活習慣の確立と安全教育の充実。	
進 路 指 導	・3年間を見通した進路シラバスの改善を行った。個別に応じた情報提供は概ねできている。 ・学年と進路指導部の連携に弱い部分が見られるため、今後連携強化に努め対応していくことが求められている。特に、面接指導・履歴書の書き方等しっかりとした指導体制が必要である。 ・各組織の連携をもとにビジネスマナーの徹底を図る必要がある。	・コロナウィルス感染症のなか、長年の進路指導の成果が出ている。職種が事務系、販売系に就職する生徒が多い状況である。就職先の新規開拓に課題を残す。 ・企業の職種の形態の変化について、教職員を始め生徒・保護者へも説明していくことが必要。さらに積極的な情報発信が必要である。 ・就職率向上へは保護者に対する説明と理解が必要である。 ・商業高校の特性を生かした進学への対応が必要。 ・来年度も、知識技術を身に付けた生徒の育成に期待する。
改 善 方 策	・進路シラバスに基づき、進路指導部と学年との連携を密にし、3年間を見据えた系統立てたキャリア教育の推進。 ・進路相談員の活用や地域との連携による進路指導の充実。 ・新規事業所の開拓	
国際理解教育の推進	・総合的な学習の時間において、韓国事情やハングルの学習を行った。 ・台湾への見学旅行が中止となった。	・海外への見学旅行継続について、生徒に広い視野を持たせるために有効である。台湾の高校とのさらなる相互理解のため、本校生徒への国際理解教育のさらなる充実、取組が必要である。
改 善 方 策	・国際経済科の特色として国際理解教育の推進および学校設定科目「東アジア言語文化入門」の学習内容の充実。 ・交流に向けての事前学習の内容を検討する。	
地域や保護者と連携した教育活動	・今年度、地域人材を活用した授業を実施することができない状況であった。また、科目「課題研究」の学習内容の変更により地元企業との連携を深めることができなかった。 ・PTA活動については、すべての内容が中止となった。	・コロナウィルス感染症のため、すべての活動が中止となり、来年度その連携が途切れないようにする連携が必要である。 ・通常の授業による、地域人材活用が求められている。 ・学校の情報発信については、今後も努力を必要とする。
改 善 方 策	・学習活動の展開として地元企業との更なる連携。 ・地域のイベントへのボランティア活動の推進 ・生徒の学習内容、学習活動等の積極的な情報の発信。	
教職員の危機管理・働き方改革の推進	・コロナウィルス感染症対策については概ね良好である。 ・教職員の服務規律の意識は概ね良好と思われるが、校内研修を通じて更なる高揚が必要である。 ・非常時の生徒の安全・安心のため、災害時に備えた学校が対応すべき内容の点検が必要である。 ・危機管理に対する研修の充実。	・感染症対策への充実をお願いする。 ・自然災害等への、危機管理意識の向上が求められる。 ・教職員の不祥事は社会的影響力が大きいため、服務規律の保持を図る必要がある。 ・学校への信頼は学習面だけでなく、人格形成に対する期待も大きいことを意識して欲しい。
改 善 方 策	・緊急時の対応について、マニュアルの再確認、校内研修による知識技術の習得 ・来年度にむけて、北海道アクションプランに沿った取組の推進	
公 表 方 法	・学校Webページでの公表を予定 ・PTA会議等での公表を予定	

3 添付書類

- ・令和2年度 自己評価書・学校関係者評価書（PTA役員・学校評議員）